



施工
レポート

伝統の左官仕上げによる復元工事で 歴史的建築物を次代に——旧円通寺客殿

施工：馬淵建設株式会社／左官工事：株式会社 あじま左官工芸／
調査・設計・監理：株式会社 建文

京浜急行線金沢八景駅のほど近く、茅葺屋根が印象的な建物が佇んでいる。横浜市特定景観形成歴史的建造物の旧円通寺客殿だ。

金沢八景駅周辺の土地区画整備に伴う緑地公園整備事業の一つとして復元保存が行われた。この復元工事の左官工事は、寺社仏閣や伝統建築に多くの実績のある、あじま左官工芸が担当している。前回レポートでは施工中の現場を訪れ、現場監督を務める同社工事部職長の濱田雄太さんに旧円通寺客殿の仕上げについて話を伺ったが、今回は施工当時のようすを振り返りながら、完成した客殿のようすを紹介していく。（編集部）

はじめに

旧円通寺客殿は江戸時代末期頃に建設されたと考えられている。当地は天台宗浅草東光院末、日輪山円通寺の境内で、円通寺は西方にある御伊勢山・権現山の山腹にあったとされる東照宮の別当寺であった。1868年の神仏分離令により円通寺は廃寺となり、最後の僧であった木村芳臣が還俗して円通寺客殿は、木村家住宅となった。その後、5代に



▲入母屋造りの茅葺屋根と伝統家屋の佇まいが青空に映える

わたり住み続けられた木村家住宅は、江戸時代末期に建てられた歴史的な価値、御伊勢山・権現山に祀られた東照宮と別棟寺である円通寺の貴重な遺構、茅葺屋根をもつ旧円通寺客殿が構成する景観が、往時より景勝地として親しまれてきた金沢八景の歴史や風土、情景を今に伝える貴重な遺構として1995年(平成7)3月に横浜市認定歴史的建造物「木村家住宅主屋(旧円通寺客殿)」に認定、2016年(平成28年)2月には魅力ある都市景観の創造を推進する上で特に重要な建物として特定景観形成歴史的建造物に指定された。